

日本看護系学会協議会への提案			
データソース	コード	カテゴリ	新
インタビュー	分かりやすい制度や仕組みをつくる	専門性の高い看護職の資格制度の整理	
インタビュー	学会認定資格と APN はどう違うのかを明文化する		
自由記述	地球規模で社会状況に合わせた高度実践看護師の活動を調査し、人口減少社会を前提とした長期的な人材育成のデザインを描く	日本の状況に適した APN 育成のグランドデザイン作成	
インタビュー	社会が変わってきたら CNS・NP と区分せず APN として一緒にしてよい		
インタビュー	母性看護学会だけでなく全専門領域の APN のグランドデザインができてほしい		
インタビュー	APN と学会認定がどうコラボレーションし日本のケアの質を向上できるか検討することが必要		
自由記述	日本看護系学会協議会がイニシアチブをとり社会的もシンプルに説明できる APN 制度の整理、将来の医療に貢献できる APN 育成の制度作りへの提言を行う		
インタビュー	APN グランドデザイン考案に向け JANA 会員学会以外にも旗振りして多様な意見を収集するべき	APN 育成制度整備に向けたイニシアチブの発揮	
インタビュー	JANA は、看護職が APN の歴史から学び一丸となって活動できるようにするうえで役割を果たしてほしい		
インタビュー	看護界を引っ張る大きな組織として仕組みを検討してほしい		
インタビュー	学会にも人材育成の一環として APN やスペシャリスト育成を支援する役割があることを明言する		
インタビュー	APN の支援を手探りで当学会もやってきているので他学会と歩みを共にすることの統括をしてほしい		
インタビュー	JANA にはプラットフォーム機能を期待している		
自由記述	APN 制度とその他の資格制度、および特定行為研修とをひとまとめにして論じることは避けるべきである。	APN 制度とその他の資格制度の議論の分離	
インタビュー	認定・特定を入れ日本で考えていく上で言葉の使い方が気になる		
自由記述	学術団体として、多様な高度実践看護師の能力を基盤に看護の実践能力のグレードを分類など、統合的に提示する	APN を含む看護実践能力の分類の提示	
インタビュー	APN、高度実践看護師として、その必要な特定行為を取るためにコンピテンシーがあるといい		
自由記述	日本の APN の役割遂行の実態を把握する。		
自由記述	APN 制度に関する社員学会への調査を行うこと	日本の APN の役割遂行実態把握	
インタビュー	CNS と NP の全国調査を行って実態を調査するとよいと思う		
自由記述	JANPU と看護協会の連携強化を図り、日本の看護は APN をどのように考えていくか、制度上の課題について、透明性を確保しながら十分に議論する。	APN 制度推進に向けた他のステークホルダーとの連携と議論	
自由記述	社会の複雑かつ多様な医療ニーズに呼応するために、さらなる学会横断的なつながりの強化と発展をする		
インタビュー	ステークホルダーとの連携議論も看護界総力を挙げてやっていく必要がある		
インタビュー	JANA には学会間のつながりを統括するような役割を期待する		
インタビュー	JANA は看護系学会の横断的な連携を強化することが役割	APN 制度推進に向けた他のステークホルダーとの連携と議論	
インタビュー	特定行為は医師の学会と専門学会との連携の中で進んだ感じがするので、その実態がわかるとよい		

インタビュー	APN 育成のための大学間連携もやってほしい	APN 育成のための大学間連携の推進
インタビュー	APN として CNS と NP の履修する基盤分野を共通にすることで明確になる	
自由記述	APN 教育課程間の連携を強化し修了生を増やすために柔軟な教育体制を作る。	
自由記述	高度実践看護師教育課程の共通科目の教材の共有教育機関の協力支援体制	
自由記述	APN を法制化を伴う制度整備のために、整備・推進するためにステークホルダーの連携協働に向け必要なエビデンスを提供する役割を發揮する	APN 制度推進に向けたエビデンス集積と教育的支援
自由記述	高度実践看護師制度推進のための教育的支援のために、社員学会は自らの立ち位置と役割を再認識し、学術的な研鑽に励む	
自由記述	日本看護系学会協議会の諸学会で関心のある学会および日本看護系大学協議会と協働して、看護実践領域における看護学独自の研究手法の発展に取り組む	
インタビュー	JANA のなかで APN が継続的に能力開発できるような仕組みができるとよい	
インタビュー	JANA ・ JANPU ・ 日本看護協会などが APN の活動の効果についてエビデンスの高い検証をしていく必要がある	
インタビュー	JANA がリーダーシップをとり実践の評価指標のフレームワークを推進	
インタビュー	アウトカムを打ち出して各学会でチームを組んで研究に取り組んで結果を統合する	
インタビュー	CNS の活動に関するエビデンスを出すことを先導してほしい	
インタビュー	RCT を組むときに対照群になった方への不利益を考慮したデザインを組む勉強会があると研究をやりやすい	
インタビュー	グランドデザインに向けたエビデンスの集積に CNS をリソースとして活用する	
インタビュー	APN の活動を評価するために全国で統一した評価指標を学会で出す	
インタビュー	質の高い看護職が医療利用者に働き掛けたときの医療利用者の利点を明らかにする研究手法の構築	
インタビュー	多様な学会や JANPU 等とも検討した上で方向性を明らかにし、その後そこに向かってエビデンスを集めていったほうが良い	
インタビュー	エビデンス構築のために診療報酬改定で各学会から出されているメンバーから少し意識的に関心領域でマッチングする	
インタビュー	JANA から学会間の連携を投げ掛ける	APN 制度の広報
インタビュー	事例研究や実践研究の研究方法考えていけるための研究のトレンドや最新情報とかを少し発信してほしい	
インタビュー	APN は修士以上なので JANPU と共同して、ICN の報告書を土台に APN を進めるためにもっと踏み込んだ調査も行ってほしい	
自由記述	シンポジウムなどの開催	
インタビュー	APN の活動を可視化するため、JANA にはホームページ等を活用して各学会の情報が発信できるような仕組みをつくってほしい	
インタビュー	今の高度実践看護師と呼ばれる資格を整理して国民からわかるように示す必要がある	
インタビュー	APN に関するアンケートをすることでその存在を知ってもらう機会になる	

インタビュー	他職種や国民に看護はこういうところをやっている専門家で、こういうところで社会に寄与できるということアピールする		
自由記述	既修得単位の免除など、資格取得時の柔軟な対応の精度をつくる	専門性の高い看護職の資格制度の整理	
自由記述	課題を解決する取り組みをする		
自由記述	関連学会との共同支援（例えば遺伝看護学会 NIPT 問題、助産学会出生前訪問、小さく生まれる子のケア参加、在宅医療支援、災害支援等）		
インタビュー	JANA の中に会員学会の CNS を対象とした委員会があると、CNS 同士が意見しやすく、自分たちの立ち位置を把握しやすくなるのではないか	関連学会との共同課題解決	
インタビュー	今回の調査を学会の研修委員会にフィードバックしたら、各学会員のモチベーションが高まるのではないか		
インタビュー	2040 年の日本の現状を見据えながら、APN をどう支えていくとか、どんな仕事をしなきゃいけないみたいかを JANA 全体で検討したい		
自由記述	社員学会の要件の見直しを。社員学会内でも一般会員からは、活動が見えにくいのでは	社員学会要件の見直し	
インタビュー	JANA 会員要件をもっと緩めて欲しいという意見もある。		
自由記述	高度実践看護師への学会としての組織的取り組みの Good Practice を示す	APN に関する学会活動のグッドプラクティスの提示	
インタビュー	各学会のどういう方向性と合意形成のもとに、APN を盛り立てていこうとしているか深掘りして調査してほしい	APN 育成制度整備に向けた調査研究の実施	○
インタビュー	勤務をしながら大学院に来てる院生と大学どういう工夫をしているのかっていうことを調査をして共有してほしい		
インタビュー	JANPU が E-learning 教材を作って各大学院が活用できるようにすると教員の負担が減る	APN 教育課程の検討	○
インタビュー	CNS 教育課程の 3P と特定行為研修も近い部分があるため、つながりや教育課程の評価を検討する必要がある		
インタビュー	CNS や NP を分けず高度実践看護 APN のくくりでできる活動を増やす	APN としての括りで活動の機会を提供	○
インタビュー	CNS 学会が JANA に入っていないことを疑問に思っている		
インタビュー	なぜ JANA に NP 学会が入っていて、CNS 学会が入っていないのか	APN に関連する学会を社員学会にする	○
インタビュー	APN に関する各学会の意見を集約するために患者の事例を用いて臨床上の質問をする	APN 制度推進に向けた臨床事例を用いた意見の集約	○
インタビュー	現場に医師がおらず、看護師としてどうするべきかという状況下で国家資格が必要と言える事例を出してもら		
インタビュー	制度化の意味するところが曖昧なため、社員学会に NP の国家資格化についての意見を尋ねる	新たな国家資格化についての意見の集約	○
インタビュー	JANA として各学会の意見を集約し、国家資格化が必要か否かを明確にして議論を進める		
インタビュー	病院が CNS を活用しやすくするために APN のコンピテンシーとキャリアモデルを提示する	APN コンピテンシーとキャリアモデルの提示	○
インタビュー	病院の機能評価などに高度実践看護師が活動していること重要性を盛り込んでほしい	病院機能評価への APN 項目追加の働きかけ	○

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

データソース	コード	RQ2 カテゴリ	新
自由記述	専門性の高い看護職の学会としてのとする現状調査を実施する	学会による専門性の高い看護師の現状調査	
自由記述	会員データの登録推進を行う		
自由記述	人数や実態の把握のための会員登録システムの再構築による実態把握を行う		
インタビュー	CNS と NP の役割・活動範囲について日本の状況を見る		
インタビュー	CNS や NP 教育課程修了者による地域で働くナースのボトムアップへの貢献度を具体的に示す		
インタビュー	学会委員会より日本の APN の役割遂行・実態把握は絶対やっっていく必要があると意見が出ている		
インタビュー	APN が委員長を務める委員会作成の学会ガイドライン・指針を活用してどういう成果が出されたか、学会の責任の中で調査しても良い		
インタビュー	学会として APN が委員長を務める委員会による提言の周知や活用の程度は調査していきたい		
インタビュー	精神保健看護学会として精神看護専門看護師の正確な数・所属・地域・経験年数・更新回数などの概要を把握する必要がある。		
インタビュー	学会に設置している CNS・CN のプラットフォームの活用状況を把握する		
インタビュー	学会として調査してグッドプラクティス以上の実践内容の効果の調査をこれから行う		
インタビュー	学会として APN の活動の現状調査		
インタビュー	APN 委員会の中の部会で母性看護師の実践の中にある高度実践を明らかにするための研究を始めて CNS にインタビューしている		
インタビュー	精神保健看護学会として精神看護専門看護師の勤務する病院・精神に特化した訪問看護ステーションなどの実際の活動・教育・研究状況の把握がエビデンス集積に向け根本的に大切と考えている		
自由記述	参加者の動向やニーズを把握し在宅ケアの質向上に関する評価		学会認定資格研修プログラムの改善
自由記述	研修プログラムの充実 更新の方法		
インタビュー	学会認証資格の商標登録や資格更新のポイント制度を検討している		
インタビュー	最新の知見は学会の教育セミナーで共有していたが、記録に残らないので E-learning を活用し始めた		
インタビュー	疾患ベースではなくだれでも活用できるプログラム作成を行っている学会が開催する研修会に参加したら高度実践看護師の教育と単位互換できる専門医制度のような仕組みがあるとよい		
自由記述	へき地看護についての専門性の高い看護職の育成と活用をする	学会として専門性の高い看護職を育成・活用	
自由記述	細分化した救急看護の専門性をもった救急看護師を育成する		
自由記述	産業看護職に関する専門性の高い看護職の育成		
自由記述	心不全看護の質の向上と専門性の獲得		
自由記述	専門性の高い看護職の育成と活用の推進ならびにバックアップを行う		
自由記述	各種委員会活動などを通じた活躍の場の拡大を行う		
自由記述	育成は関連団体からの要請があれば応じる。また学会活動の活性化に必要な人材活用はあり得る。		
自由記述	現場で活躍できるように研究活動を含め支援する		
自由記述	実践の質向上のための専門性の高い看護師の組織化を行う		
自由記述	組織的に人材育成及び人材活用		
自由記述	研修修了者に学会活動における役割提供をおこなう		
インタビュー	CNS 資格保有者が、学会認定資格の指導者プログラムをショートカットで受講できる形にしていく		
インタビュー	学会の E-learning 開発では委員会に CNS に入ってもらった		
インタビュー	学会の編集委員に CNS を活用する		
インタビュー	今回のアンケートで APN について学会として取り組みを検討する		
インタビュー	学会委員会の今期活動内容として APN の役割や教育を考えている		
インタビュー	学会の委員会の活動目標は、専門領域の CNS や APN 教育課程修了者の役割の明確化と専門領域の看護に関わる APN の教育に関する課題の明確化である		
インタビュー	スモールインタレストグループなど専門性の高い看護職の育成活用		

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

インタビュー	専門領域における APN を考えると、CNS と NP を今後活動に入れ込んでいく		
インタビュー	学会理事に CNS がおり、委員にも必ず CNS が入っているため活用している		
インタビュー	学会として明確に活用方針の柱を立てていないが、現実的にはかなり活用している		
インタビュー	APN が委員長を務める委員会は、倫理指針など実践現場の課題解決ガイドラインとしてリバイズする活動をしている		
インタビュー	学会の委員会として毎年組んでいる研修の講師として専門看護師をメインに活用する		
インタビュー	APN が所属する学会内小委員会の議論を積極的に学術集会のワークショップなどを開く		
インタビュー	学会としては、今いる専門看護師を学会の中で活かすことから始めていく		
インタビュー	学会編集委員に CNS を 1 名必ず入れている		
インタビュー	研修や学会で講師として CNS や CN を活用することで活動をアピールする		
インタビュー	大学教員と CNS、CN が共に学会の委員会活動を行う		
インタビュー	学会として定期的に APN 制度について議論していかなければならない		
インタビュー	学会連携でガイドラインを作成するときに CNS を活用する		
インタビュー	ブラッシュアップ研修は、診療報酬に直結する内容以外にも、新しい知識を得られるようにプログラムを組んでいる		
インタビュー	実践成果の客観的な指標化も必要である。		
インタビュー	特に小児はプライマリケアが医療ケアを必要とする対象が多数存在するため、今後は健康支援 + a の修士レベルの高いアセスメント能力とケア能力が必要	学会として専門性の高い看護職の継続的な能力開発	
自由記述	研究への取り組み支援、新しい委員会立ち上げ時のワーキングメンバーなど活躍の場を広げ資格取得後の継続的な能力開発を行う		
自由記述	在宅ケアにかかわる専門職にむけた確かな知識と、専門性の高い技術を学ぶ機会の継続的提供		
インタビュー	エビデンス集積のために研究者と連携		
インタビュー	調査やインタビューの内容、事例のまとめ方について研究者から支援を得る		
インタビュー	病院の中で CNS がやっていて見えない実践をグッドプラクティスの中で出す		
インタビュー	研究者と専門看護師と一緒に研究デザインを組んで RCT を行う		
インタビュー	学会レベルで高度実践看護師のアウトカムのフレームワークを提示		
インタビュー	高度実践看護師の実践や知見を研究として公表し発信することが、学会の役割・使命である		
インタビュー	実態調査の基礎データの収集は自ずと診療報酬に絡んでくるため、決められたデータが集約されて漏れなく取れている	専門性の高い看護師の育成によるエビデンスの蓄積と発信	
インタビュー	学会主催の研修の評価を目的とした論文を準備している		
インタビュー	研修受講者の活動の評価や調査は、定期的に実施している		
インタビュー	ブラッシュアップ研修時にアンケートを取り、初回研修後どのように活動を展開したかを調査している		
インタビュー	データの蓄積を視野に入れ、標準化した記録用紙を用いて調査している		
インタビュー	研究チームを組んで CNS が介入したことによる効果を見える化する		
インタビュー	学会で施設を超えた CNS のつながりを作って研究に取り組む		
インタビュー	学会として看護実践のエビデンス集積のための評価を社会的に広める		
インタビュー	学会として専門性の高い看護師の育成や活動に関するエビデンス構築に関与できると思う		
インタビュー	学会として実践知を集積する事例研究を推進している		
インタビュー	CNS の活動の効果や CNS が活動することによる医療利用者の利点など何のエビデンスかを明確にする		

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

インタビュー	エビデンスを出すため事例研究法などの研究能力を高めて論文発表する	
インタビュー	学会としては事例研究を頑張ってやっている	
インタビュー	認定看護師や専門看護師の活動の成果を学会として調査してほしいというニーズがある	
インタビュー	数例の事例ではエビデンスとして弱いがベストプラクティスとして示せる部分はある	
インタビュー	学会で CNS がやっている専門性のエビデンス集積	
インタビュー	エビデンス集積に関しては母性看護領域のグッドプラクティスのエビデンスとして、明らかにしていく研究が立ち上がっている	
インタビュー	個々のケアを形にして伝えていくことに取り組みないといけない	
自由記述	CNS の介入効果のエビデンスづくりが必要である	
自由記述	専門性の高い看護師の活動を診療報酬につなげる仕組みを検討する	
自由記述	学術研究に携わる会員を増やし科学的エビデンスを収集し、社会に発信する	
インタビュー	エビデンス構築に向けた介入研究のメンバー調整	
インタビュー	CNS のケア評価のためにマニュアルやプロトコルを作成	
自由記述	高度実践看護の発展、多様な領域や場で活躍する看護職者の研究発信と高度な看護実践を共有する場及び研究力向上として活用される学術団体として活動する	
自由記述	専門性の高い看護職の育成・活用を支えるべく、基盤形成のための役割（知識や実践の体系化）のため、学術研究の助成、セミナー、学術集会の開催、専門部会の活動（専門的セミナー開催など）を実施する	
自由記述	学会における専門性の高い看護職の育成はあくまでも学術的な取り組みであるため、学術的に高度の知見を積んだ人材を育て、それを学会ならびに学会が取り組む専門性の発展に役立てたい	
自由記述	正確な看護診断/看護判断ができる力を養うことに注目し、その教育に貢献する	専門性の高い看護師の基礎的能力の育成に資する教育研究への貢献
インタビュー	学会内の教員から研究のアドバイスをもらえるようにしている	
インタビュー	学術推進委員として研究に関するセミナーをしている	
インタビュー	学会として研究に対して補助金を出してサポートしている	
インタビュー	若手を対象に CNS の研究を支援している	
インタビュー	学会としてグッドプラクティスを集約した多くの書籍を出版しており、研修のテキストとしても活用している	
インタビュー	学会で作成したテキストを看護師の研修プログラムで活用する	
インタビュー	高度実践者に求める研究能力を学会としてフォローアップする必要がある	
インタビュー	学会 APN 班として APN の実践モデルを提示する	
インタビュー	専門領域の APN という前提でも看護実践能力をラダー等で示す	
インタビュー	事例研究法や研究手法の教育的支援も必要になってくる	
自由記述	外部研修会の開催等、高度実践看護師の自主活動の拡大を支援する	
インタビュー	専門看護師の高度実践力の維持・向上のための教育体制・計画立案を通して、高度実践の維持・向上を支える企画ができないか考えている	
インタビュー	CNS・CN が交流できるようにしておりホームページで情報公開している	
インタビュー	学会として APN をリーダーにしたがん看護学会スモールインタレストグループに CNS をコアメンバーに領域ごとに立てる取り組みなどを推進する必要がある。	高度実践看護師の組織化
インタビュー	例えば、学会に小委員会を設け APN の組織化ができれば良いと考えている	
インタビュー	組織でケア体制を整備するということに CNS や CN は活用されている	
自由記述	高度実践看護師のサブスペシャリティの開発と活用を学会が支援する	高度実践看護師のサブスペシャリティの開発活用への支援
インタビュー	学会のなかでサブスペシャリティを学ぶグループを作って仲間同士で刺激を受ける場	

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

インタビュー	CNS のサブスペシャリティに特化しながら考えている			
インタビュー	慢性疾患では CNS としての活動が難しいのでサブスペシャリティを出して活動している			
インタビュー	APN コンピテンシーができればそのコンピテンシーを軸にしてサブスペシャリティとして落としていける			
インタビュー	サブスペシャリティの開発活用支援として実践モデルを描く			
インタビュー	学会として高度実践看護師の育成を続けていきたい	高度実践看護師の継続的な能力開発		
インタビュー	学会として CNS が取得の支援教育支援団体で位置付いている			
インタビュー	直接実践ができる CNS のニーズはある			
インタビュー	学会で行っている研修制度はスペシャライズドナースを育成するもので APN に向けた研修ではない			
自由記述	高度実践看護師への継続教育を行う	高度実践看護師の継続的な能力開発		
自由記述	高度実践看護師への継続教育のセミナーを定期的に開催する			
インタビュー	補助金もらって NP 教育課程修了生のアウトカムの報告書をまとめている	高度実践看護に関する研究知見の共有の場の提供		
インタビュー	学術総会で高度実践看護師をピックアップしている			
自由記述	看護系大学大学院での教育、テキストの作成など大学院教育の充実による看護の質向上を目指す	大学院教育の標準化と充実		
自由記述	APN 教育大学院間の連携を密にして情報共有を行う	大学院間の連携		
自由記述	学会の専門性をサブスペシャリティとして位置づけ他の専門性の高い看護師と連携した育成活用	他の専門領域と連携した育成・活用		
自由記述	専門性の高い看護職の学会活動への参画を得て他領域と連携・協働する			
自由記述	他学会、他団体と連携を取る			
インタビュー	CNS の分野横断的なつながりを強化し、横断的な研究をおこなえるように学会としてサポートする			
インタビュー	個々の役割や技術といった能力を拡張するためには、連携が一番重要になると思う			
インタビュー	認定看護師や専門看護師は各分野に該当する学会が推める形がよい			
インタビュー	認定看護師・専門看護師は学会ごとにバックアップの役割分担をしている			
インタビュー	関連学会との共同課題解決を横の連携で是非やっていきたい			
インタビュー	高度実践看護師に関するコラボは、CNS 学会とのコラボのほうがしやすい			
インタビュー	JANA に CNS 協議会が入っていないが NP 学会は入っているため、本学会は CNS 協議会との連携をできるだけ付けるようにしていきたい			
自由記述	活動や発展の経緯を歴史的に残す	活動の経緯を残す		
自由記述	学会独自の資格や認定制度を設置する予定はないが、各領域・分野の専門性の高い看護職がその専門性を発揮でき、会員がそれを享受できる機会を提供することで、育成および活用に貢献する	高度実践看護に関する研究知見の共有の場の提供		
自由記述	看護職が活用可能な研究成果を産出し公表すること、研究成果活用の実際について発信し続ける			
自由記述	地域包括ケアを推進する人材育成	地域包括ケアを推進する人材育成		
インタビュー	エビデンスの蓄積を目的として、学会内のワーキンググループに CNS に入ってもらう	専門性の高い看護師を含んだチームによるエビデンス蓄積	○	
インタビュー	学会として、現地を調査する委員会に CNS にも入ってもらう			
インタビュー	学会が主導して CNS と認定看護師を集めてプロジェクトをつくる			
インタビュー	心不全の遠隔看護プロジェクトなどの時代を先取りしたプロジェクトチームを学会主導で作る			
インタビュー	CNS 学会が JANA の社員学会に入れるように、災害看護学会でも取り組んでいく	APN に関連する学会への JANA への入会の働きかけ	○	
インタビュー	遠隔モニタリングに関する海外のエビデンスを集めながら、診療報酬への働き掛けをしている	エビデンスの蓄積による診療報酬の獲得	○	

専門性の高い看護職の育成と活用に関する社員学会の今後の方向性

インタビュー	海外文献のエビデンスデータ、全国調査や実態調査の基礎データを集めて診療報酬を獲得する		
インタビュー	学会として認定看護師や CNS よりもジェネラリストの育成のための教育セミナーに力を入れている	ジェネラリストナースの教育	○
インタビュー	学会でジェネラリストを対象とした E-learning 教材を作成		
インタビュー	NP は学会認定ではなく国家資格であるべき	学会としての NP の国家資格化	○
インタビュー	臨床家の研究に学会から資金提供する	学会として研究費を助成	○
インタビュー	学会の将来構想委員会ではジェネラリストと高度実践看護師の役割拡大を検討		○
インタビュー	学会で高度実践看護検討委員会づくり、CNS 自体をどういうふうに盛り立てていくのかとか、社会的な成果をどうやって出していくのかを考える	学会として専門性の高い看護師の役割拡大を検討	○
インタビュー	学会として領域の APN グランドデザインをつくるためのワーキンググループ立ち上げ		○
インタビュー	2040 年の現状を見据えながら APN をどう支えていくとか、どんな仕事をする必要があるかグランドデザインワーキングで固めている		
インタビュー	母性看護学会で APN グランドデザインを公表してアピールすれば他学会もやろうとか、やってみようか、なっていくと思う	学会として領域の APN グランドデザインの作成と発信	
インタビュー	周産期だけの APN ではなく幅広く、女性のヘルスプロブレムを捉えられる APN のグランドデザインを考えている		
インタビュー	APN のコンピテンシー検討の班もできている	学会として領域の APN コンピテンシーの検討	○
インタビュー	他領域の CN や CNS にも研修を受けてもらえるように間口を広げた	学会として領域を超えた研修機会の提供	○
インタビュー	認定看護師や専門看護師の事例を出せるように学会誌の規定を検討する		○
インタビュー	事例や実践研究を世の中に出すための査読基準の作り替え	学会誌の規定の変更	
インタビュー	学会の中に政策委員会を置いて看保連の診療報酬の会議で情報を得て、どうしていくかを考える	診療報酬獲得に向けた情報収集	○
インタビュー	学会では研究や実践の蓄積を目標とした 5 年計画を立案、評価している	数年単位での研究や実践の蓄積	○
インタビュー	学会として活動をアピールする場合は支援してきている	専門性の高い看護師の活動を発信する場の提供	○
インタビュー	専門性の高い看護師のケアに対する管理料を取れるように、他の関連学会と共同で計画している	他学会と共同で診療報酬獲得に向けた取り組み	○
インタビュー	学会として、認定看護師や専門看護師だけでなく特定行為研修修了者も把握していきたい		
インタビュー	学会員の CNS や認定看護師の資格情報をデータベースで管理		
インタビュー	学会員の学歴や資格を確認するようになったのは最近のことである		
インタビュー	支援や学会とのコラボを考える上でも学会員の保有資格の把握は必要	学会員の保有資格や学歴の調査	○
インタビュー	日本の全ての学会が APN や周辺資格を学会としてどのように応援し活動範囲を広げていくか考える上で、実際に大学院修了生以上の資格保持者の把握が重要		
インタビュー	学会入会時に CNS の項目を取ってなかったので、名簿情報の更新を呼びかけている		
インタビュー	CNS は病院に少数しかいないという状況で働いているので、学会として APN コンピテンシーを明示して活動してもらおう	高度実践看護師の活動支援	○
インタビュー	情報提供を受けつつ精神領域の依頼を積極的に検討したい		○
インタビュー	本学会は、JANA のグランドデザインに関連した調査などには積極的に協力したい	制度構築に向けた専門性の高い看護師の議論への参加	
インタビュー	他の学会の様子を聞いて協働できそうな学会とつながっていく動きをとる		
インタビュー	今後も学会として調査結果や活動依頼を通して新たな活動を取り入れグランドデザインに貢献したい		

専門性の高い看護職の育成と活用に関して学会として認識している課題

専門性の高い看護職の育成と活用に関して学会として認識している課題				
データソース	コード	RQ3 カテゴリ	新	
自由記述	関係者から要望があるが学会認証資格が対応できていない	学会資格認証のしくみづくり		
自由記述	認定看護分野に指定されていない、かつ領域専攻の大学院の数が少ない			
自由記述	他領域の専門性の高い看護師の育成と活用に関する動向を把握し当学会の専門性の高い看護師の育成と活用について検討したい			
インタビュー	学会認定資格は更新制度が必要			
インタビュー	学会の資格更新に必要な研究がジェネラリストにとってはハードルが高い			
インタビュー	助産師という資格やアドバンス助産師といった資格認証による混乱			
インタビュー	小児はサブスペが非常に広く独立してる学会もあるため、全体把握自体が非常に難しいのも学会特性の一つ	専門性の高い看護師の実態把握		
インタビュー	本学会では APN の活動実態・実態把握も十分していない状況がある			
インタビュー	今回の調査結果やインタビューの機会をきっかけに、専門看護師の実態把握や活用を学会として考えていく必要があると認識した			
自由記述	経済的および継続的課題および実践や活用調査の研究ができていない	専門性の高い看護師の継続的育成		
自由記述	細分化された専門性を持つ卓越した救急看護師を育成する			
インタビュー	認定看護師資格を持たない看護師の質を担保するためには研修が必要			
インタビュー	学会として専門看護師をこれまで育ててきたという感覚がない			
インタビュー	学会として APN を育てているという意識は低い			
インタビュー	認定された看護職のフォローアップを行っているが育成に関するアプローチは行っていない			
自由記述	専門性の高い看護職の役割・技術の拡張の議論が先行しており、能力（コンピテンシー）が拡張するような仕組みや活用が十分ではない	専門性の高い看護師の実践能力拡大		
自由記述	専門性の高い看護職を育成していく上で地域看護学の再定義をふまえて教育内容と方法を創意工夫し、開発していく			
自由記述	専門性の高い看護職（災害看護 CNS）の必要性や役割・意義を現場が認識できるように、活動を見える化し、雇用や活用が進むように検討していく必要がある。	専門性の高い看護師の役割の明確化		
自由記述	スペシャリストの看護実践の可視化に取り組み、診療報酬や政策等へのはたらきかけをする必要がある			
自由記述	領域での上級実践の概念の混乱があり、学会として果たすべき役割や課題は何かを検討中である。			
自由記述	分野特定されて間もないことから、認知度が低く、専門性の明確化、専門性を社会に提示しコンセンサスを得ていく活動が必要となる。			
自由記述	認定看護師の役割再構築			
自由記述	個人によって理解や認識に差がある			
自由記述	資格を活かしきれっていないため診療報酬などへの反映ができない			
自由記述	学会として NP と特定行為研修を別物として捉えようとしていることが世間に伝わっていない			
インタビュー	専門看護師教育の専門科目を学会にカバーしてもらえるとよい		高度実践看護師育成連携体制構築	
インタビュー	学会が育てたり、引き上げたりする看護職のフォーカスが広がっている			
自由記述	CNS のポジションや報酬、活動時間確保等の条件が整っていないため、資格更新へのモチベーション低下、CNS 数、養成数、教育課程数の伸び悩みがある	高度実践看護師の活動環境整備		
自由記述	CNS 配置に関する診療報酬改定に向けた活動が必要である。	高度実践看護師の研究能力の向上		
自由記述	CNS が博士の学位を修得して、看護実践領域における看護学独自の貴重な研究に着手できるように支援する			
自由記述	CNS 教育機関の新規参入の見通しがなく、育成数が少ない。質を担保しつつ量的な確保も行うことが課題である。	専門性の高い看護師の数の増加	○	
自由記述	拠点病院に専門看護師が配属されるように専門看護師数を増加させる			
自由記述	専門領域の CNS の教育機関が少なく、年間の養成数に限界があり、人数が増えないことで、活用されにくい			
インタビュー	学会が関わる専門分野の CNS の数がとても少ない			
自由記述	認定看護師の育成においても、受講生の減少が目立ち、コースの減少もあるため支援の検討が必要である			
インタビュー	CNS 育成を育成する大学院が増えない			

専門性の高い看護職の育成と活用に関して学会として認識している課題

インタビュー	認定看護師の教育に特定行為研修が入ってから定員割れしている学校がある		
インタビュー	専門看護師が地域に偏在している		
自由記述	個人のカルテ・保険等で成り立っている保健医療制度において、家族全体の健康をめざす家族看護との間に概念のギャップがある点で、専門性が保険診療と結びにくい	高度実践看護の役割の明確化	
インタビュー	CNS 教育では現場での成果の示し方を教育していなかった		
自由記述	看護実践に活用される研究成果を示し発信できているか、変化する社会的課題を解決かつ創造性を有する看護学研究的発信ができているか		
インタビュー	CNS の領域間で同一の評価指標を用いた評価		
インタビュー	C N や C N S の活動の効果を数値化するのが難しい		
インタビュー	認定看護師や専門看護師の活動の成果のアウトカム設定が難しく手を付けられていない	高度実践看護に資する研究成果の発信	
インタビュー	認定看護師を対象にした調査では活動の効果を実感していたが、自己評価なのでエビデンスにはなりにくい		
インタビュー	学会認証資格者の活動をエビデンスとして明確に示すことが難しい		
インタビュー	CNS が委員長を務める委員会が報酬に意図的に結びつけるエビデンスを作る研究は難しい		
インタビュー	C N S の実践事例を報告できる学術雑誌がない		
インタビュー	学会のほうでも日本中の色々な医療の問題とか看護の問題、それから健康問題の中で、どういう役割を果たせるのかみたいなのを出したいんだけど出せないでいる		
自由記述	「実践と研究の往還」をつなぐ実践者と研究者の育成や活用ができているか	実践者と研究者の連携推進	
自由記述	臨床研究を担う人材が活躍できる場や機会を創生する活動を始めた		
自由記述	共同研究の機会促進・発展		
インタビュー	学会員は大学教員がメイン構成であり、大学教員を想定した入会基準のため、専門看護師を含む臨床家が入会しづらい。	学会員の確保	
インタビュー	学会員をふやすために学会の地方分科会を作った		
自由記述	会員の確保		
自由記述	研究能力の育成		
インタビュー	臨床で活動する CNS が倫理審査を出すのは難しい	研究能力の育成	
インタビュー	APN が委員長を務める委員会の提言による実践の変化まではデザインしにくいいため調査していない		
自由記述	家族への出生前支援 ・急性期看護ケア 家族とともに考えているケア (family centered care) ・新生児の発達を促すケア ・NICU の母乳育児支援 ・在宅ケア移行支援 ・終末期支援 ・質の高い新生児における感染対策を含む安全管理 ・災害対策支援 ・退院後の発達支援	学会の専門性に応じた多様な看護の推進	
インタビュー	学会は、精神看護に特化しているため、身体疾患の患者さんやナースのメンタルを見るリエゾン系に配慮した内容が全体的に低く、特にリエゾンの方が自己研鑽ができる場づくりもできていなかった		
インタビュー	リエゾン系 CNS は CNS 協議会のほうにかなり流れている可能性がある		
インタビュー	一人で頑張っているリエゾン系 CNS を横で繋げる活動ができていない		
自由記述	臨床で勤務する看護師が仕事を続けながら大学院で学ぶための工夫 (e-learning 等) や大学院間の協力支援体制の構築が必須	高度実践看護師育成システムの構築	
自由記述	ネットワークづくり	専門性の高い看護師の組織化	
自由記述	専門性の高い看護職とも連携・協働していけるように学会活動を展開していく	専門性の高い看護職と連携した学会活動	
自由記述	「中範囲理論」の理解と臨床での活用を効果的に教授する人材が十分いるのかが課題である	専門性の高い看護師を育成する教育者の充足	
自由記述	APN と学会が認証する専門性の高い看護職の両者の区別を行い、APN の育成と学会としての学術的な活動について議論を進めていく	高度実践看護師の定義と役割の明確化と合意	
インタビュー	学会に設置している CNS ・ CN のプラットフォームの活用状況を把握する		○

専門性の高い看護職の育成と活用に関して学会として認識している課題

インタビュー	CNS はそれぞれの領域で交流の場があるがどのくらい出会いの場があるかは把握できていない	専門性の高い看護師の交流機会の把握	
インタビュー	従来学会で取り組んできた専門性の高い看護職のケアの成果は、新たに医師に付く診療報酬と重なる	専門性の高い看護師と医師の診療報酬の重なり	○
インタビュー	学会員はそれぞれ所属の仕事を持っているので学会認定の仕事は大変	学会認定の学会員の活動量	○
インタビュー	学会での E-learning コンテンツの作成には時間を要する	教育教材開発への労力	○
インタビュー	領域を超えて日本の APN を考えていくには学会の委員会だけだと限界がある	領域の APN 活動から日本全体 APN への議論の発展	○
インタビュー	学会委員は少人数かつサブスペシャリティが脳卒中に偏っているため、APN としての考え方が難しい		
インタビュー	学会内で高度実践看護に関して検討する委員会がない	学会内で APN を検討する会議体の設置	○
インタビュー	当学会ではこの 6 年ぐらいで CNS の研修をやり始めたが、研修制度や APN 制度をあまり意識していなかった	APN を意識した研修制度の構築	○
インタビュー	各学会が行っている専門領域の看護実践を高めていく活動を具体的に知りたい	専門性の高い看護師の活動を支援するために他学会の活動を参考	○
自由記述	会員の把握と活用に未着手である		○
自由記述	スペシャリストの把握ができていない		
自由記述	データベースの精度が高くない		
インタビュー	全ての CNS が CNS 協議会に入ってるわけではない		
インタビュー	大学院修了者数を把握しきれいでなかった		
インタビュー	学会では APN について会員の動向を把握していなかった		
インタビュー	学会として、学会員がどのくらい専門看護師や認定看護師などの資格を持っているか把握してない		
インタビュー	学会で特定行為研修修了者の把握がされていないことを感じた		
		学会員の保有資格や学歴の把握	

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題				
データソース	コード	RQ4 カテゴリ	新	
インタビュー	准看護師も含め、看護職の資格をヒエラルキー構造にするのは好ましいことではない	APN 制度とその他の資格制度の整理		
インタビュー	准看護師制度を廃止して看護職の底上げができないのであれば、APN の名称で看護職の技能や能力を引き上げていくことが必要である			
インタビュー	CNS と NP 差別化しないと制度化にはつながらないような議論の方向になっている			
インタビュー	大学院修了が必須となる高度実践看護師が日本では明確になってない			
インタビュー	CNS の活動実績から今後、どのように整理していくかが課題である			
インタビュー	高度実践看護師と学会認定の資格保有者のすみわけ			
インタビュー	学会認証資格として知らない役割、資格名がたくさんあった			
インタビュー	修士以上の教育レベルで資格が乱立することを憂慮している			
インタビュー	看護系に限らず学会主導で認証している制度がある			
インタビュー	学会認証資格はどのようなときに役割発揮するのかが決められていない			
インタビュー	精神科看護協会認定看護師はある意味高度実践力を備えた看護師認定制度を持っているため、精神科看護協会が専門看護師の教育はしていないと認識している			
インタビュー	精神科看護協会認定看護師と専門看護師の役割分担が課題になっている			
インタビュー	精神科協会認定看護師と専門看護師と一緒に働いていると、どちらが何をやるか組織内の調整が必要である			
インタビュー	学会認証の資格のばらつきが広いので整理が必要			
自由記述	看護学の基盤形成を支える役割に重点を置く学術系団体と、専門性を育成・活用を担う高度実践看護師推進に重点を置く学術系団体と役割分担ができるようになる			
自由記述	APN 制度を特定行為研修修了者との関係を含めて検討する。			
インタビュー	今現状の資格がわかりにくい	専門性の高い看護職の資格制度の簡素化		
インタビュー	NP に 2 つの流れはわかりにくい			
インタビュー	2 つの NP を早い段階で整理する必要がある			
自由記述	それぞれの学会で認定されている資格を看護界全体として認定する制度に統一する			
自由記述	制度が複雑で役割や教育が理解しにくく看護学生や臨床看護師が選択できないがあることに対して日本の看護における APN の位置づけ、教育上の課題などの改善および広報・啓発を行う。			
インタビュー	CNS の分野について、現在の 14 分野のままでよいとは思わない	専門性の高い看護職の役割の再定義		
インタビュー	初代 CNS が複数いることで CNS のアイデンティティが強い			
インタビュー	APN の制度や役割を明文化する			
インタビュー	日本の看護界として高度実践看護師がどういう資格を持つ人かを示す			
自由記述	認定看護師の役割を再構築する			
インタビュー	APN は JANPU と看護協会と学会の間で役割が中途半端になっている	APN 制度整備		
自由記述	高度実践看護師が国民の健康の維持・向上を目指して実践できる業務および役割についての制度整備を行う			
自由記述	NP 教育について、日本看護系大学協議会と日本 NP 教育大学院協議会の統合と APN としての NP 認定制度の構築を進める			
自由記述	法的整備を行う			
インタビュー	現場で働く NP は、不確定な状況に対して、早く制度化をしてほしいと思っている	APN 教育の拡充		
インタビュー	CNS 教育機関が少ないので数を増やしていくことが重要である			
インタビュー	CNS の教育体制の検討が最重要である			
インタビュー	専門看護師コースの運営が負担で開講をやめる大学も多いため、今後も教育を続けるのであれば再編成が課題			
自由記述	CNS、診療看護師、JANPU-NP の増加のため教育内容を検討する			
自由記述	大学院で育成できる CNS の数が少数である			
自由記述	看護基礎教育にはない分野の高度実践看護師教育プログラムを検討する			
自由記述	人材育成のための人材の質的・量的充足			
インタビュー	高度実践看護師のありかたについての意見が、看護協会や各学会で分かれています		APN 制度推進組織の構築	

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

インタビュー	NP を国家資格にすべきか否かという方向性を明確にしないと議論が進まない		
自由記述	我が国看護界に存在する職能、教育、学術等の団体が一丸となって意思統一し、社会や国に働きかけるために協議会を新たに創る		
インタビュー	JANA、JANPU、看護協会、文科省、厚労省等で、APN のよし悪しをざっくばらんに話し合えるような環境が必要ではないか	APN 制度推進のためのステークホルダーとの連携	
インタビュー	APN に対する否定的な意見も受け入れつつ、議論の場をつくる必要がある		
インタビュー	JANA、JANPU、看護協会、様々な組織が定期的に意見交換していく形になるとよい		
インタビュー	看護協会に対して、患者団体に看護師の役割拡大の必要性を説明してもらうよう訴えているが取り合ってもらえない		
インタビュー	医師会は NP の責任の所在を問うワンパターンの議論をしてくる		
インタビュー	保健師は NP 制度化に必要な存在だが、事務作業の負担増加を理由に対応困難と言われることも多い		
インタビュー	大学院の分野の再編成の議論の経過が見えないため、JANPU にも意見してほしい		
インタビュー	日本専門看護師協議会が JANA の会員団体でないことを今回知った。		
インタビュー	看護がアピールしても医師からも認めてもらわないと進まない実態は絶対あると思う		
インタビュー	APN で権限を拡大する議論のためには医師との学会の関連も実態として分かるとよい		
自由記述	APN および特定行為研修制度は地方自治体の医療政策にも大きく影響を受けるため、大学教員が地方自治体の施策に対して有識者として関与する		
自由記述	現在の状況を対立構図でなく diversity として包含し医師はじめ他職種の理解を得る		
自由記述	看護関係団体（看護系学会を含む）による情報を共有し、制度推進のため連携する		
インタビュー	CNS のモデルや CNS 共通のコンピテンシーを明確化する		APN のコンピテンシーの明確化と共有
インタビュー	日本の APN のコンピテンシーをさまざまな学会の委員会が入って作る		
インタビュー	理論や患者特性の理解なしに特定行為の技術だけを磨いても患者の利益につながらない		
インタビュー	看護理論や看護学としての対象の捉え方なく技術だけ学ぶ看護職者は育成しないことを明確にすべき		
自由記述	様々な教育課程やカリキュラムが併存する現状を解決するために、高度実践看護師の活動や成果を集積し、必要とされる能力とその評価方法なども検討し、関係者で共有する		
自由記述	専門領域における高度実践看護師のコンピテンシーおよび実践活動の分析を進め、論文化によって可視化する		
インタビュー	CNS はチームで活動するので実践が見えにくい	APN の成果研究の推進	
インタビュー	一つの学会でエビデンスをつくるのが難しいので学会間の連携が非常に重要になる		
インタビュー	学術誌に実践報告を受け入れていただきたい。		
インタビュー	看護の対象となる人たちにもたらす利益を表現するために看護学独自の研究法を構築する必要がある		
インタビュー	事例のオリジナリティーが看護学において重要であり、看護学も独自の研究手法を作ることに価値がある		
インタビュー	修士課程を修了した APN や看護職による研究の質を高める		
インタビュー	制度化に向け、実践のアウトカムのエビデンスを構築するためにはどうしたらよいかを考えるべき		
インタビュー	医師の代わりに NP が実践することで、アウトカムが改善せずとも悪化はせず、最低限の質が担保されていたと示すことが重要		
インタビュー	患者のアウトカムではなく、NP の満足度などに焦点を当てた研究に時間を費やすことは止めたほうがよい		
インタビュー	研究結果を積み重ね、よい実践をアウトカムとして示していく		
インタビュー	CNS 自身が教育課程で学んだ改革者としての視点で活動を展開し、エビデンスを蓄積して社会に意見する		
インタビュー	大学院を修了した看護師の社会貢献や活躍の成果を示すことができていない		

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

インタビュー	実践の効果を可視化することは CNS の課題		
インタビュー	高度実践看護師の実践のエビデンスを構築する評価に課題		
インタビュー	エビデンス集積のために APN の実践の成果を示す		
インタビュー	事例を論文で報告するときに 研究者の協力を得る		
インタビュー	事例を公表できていないので、CNS の活動として提示できるデータがない		
インタビュー	研究者と CNS で事例を発表できるような支援体制をつくる		
自由記述	APN の成果研究推進のために臨床の体制を整備する		
自由記述	看護系大学大学院において看護実践領域における看護学独自の研究方法を CNS 等の資格を有している博士後期課程院生とともに探究をすすめる		
自由記述	高度実践看護師の活動によるアウトカムをデータとして示す		
インタビュー	CNS の実践が蓄積されてもナラティブなエビデンスを論文化できない		
インタビュー	APN は、自分たちの実践を伝えたいと思っているが十分にできていないためにエビデンスにつながっていない		
インタビュー	CNS の実践が蓄積されてもナラティブなエビデンスとして論文化されない		
インタビュー	大学院どうしの単位互換はあるが、各大学院の都合をすり合わせることに大変なエネルギーが必要		
インタビュー	分野不問で CNS を集中的に育てる共同大学院のような教育環境が必要である		
インタビュー	教員の負担と学生数の減少を踏まえて、大学の特性を活かした連携の仕組みを作っていく		
インタビュー	専門看護師の学生教育に相当な時間を割いている現状があるため、グランドデザインの中に養成機関が連携し単位互換など共同的教育ができる体制を整備		
インタビュー	学会は人材育成がメインではないため JANPU と目指すところを擦り合わせて連携し大学院教育で実践者を養成する		
自由記述	社会的ニーズに応答するため、量的に人材を充足させ、質の維持・保障は、取得後の更新制度等で行うなど、資格取得機会を幅広く、多くの看護師に提供するため看護系大学間で連携する	APN の量的拡充のための看護系大学間連携	
自由記述	高度実践看護師の養成に向け、大学院教育の充実および指導教員の拡充を行う		
自由記述	専門看護師の養成数を増やすために、東西に教育拠点を設置し、集中的養成とともに、全国の大学院を支援するなどを検討する。		
自由記述	専門看護師養成教育プログラムにおける大学の負担に関する軽減（例えば、専門看護師共通科目や 4P 科目において e-learning オンデマンド配信を利用可能とするなど）を行う		
自由記述	CNS、診療看護師、JANPU-NP の増加のための教育機関の協力支援体制を構築する		
自由記述	大学院の学生数が少ないことに対する共同授業など大学院間での教育連携を行う		
インタビュー	保健師と NP が協力していくこと		○
インタビュー	現場の CNS に対する管理者の期待値が高いことにより、能力以上のことを求められてしまう	APN 活動モデルの構築	
自由記述	APN に対する看護管理者の理解を得て活動モデルを構築すること		
インタビュー	2040 年を見据えて APN がちゃんと役割が果たせるために学会が共同しないといけない。		
インタビュー	APN に関連する情報がホームページ上で開示されたら、各学会が APN 制度についてボトムアップ的に考えられるようになると思う		
インタビュー	各大学が協力して切磋琢磨できるような形が作れると、各学会での認定制度などにつながれるのではないかと	看護系学会による APN 活動支援の組織化	
インタビュー	大学院修了後に学会からフォローアップを得て段階的な認証を受けていくような CNS 教育の仕組みができるとよい		
インタビュー	学会や看護系大学協議会による高度実践看護師の教育課程の質を担保できるようなサポートの仕組みづくり		
インタビュー	学会間のつながりを考える必要性がある		
自由記述	高度実践看護師の資格を獲得した後の実践力・研究力の向上にむけた組織的支援体制を整備する		

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

自由記述	APN、専門性の高い看護師の資格を持つ者の把握し、APNの教育、実践、研究等の活動の支援の必要性の検討を行うための学会組織の改組および人員と予算の確保を検討する。		
インタビュー	APN制度の広報も本学会・委員会のテーマセッションでやっている	国民・社会への広報活動	
インタビュー	医師会に直接議論するのではなく、患者や消費者団体に対して看護師の役割拡大の必要性を説明する必要がある		
インタビュー	各学会の市民公開講座で、NPの制度化の必要性について話をするなどの活動ができる		
インタビュー	NPの制度化に際しては、患者の意見が一番強く確固たるものになるため、看護師は医師会よりも患者に向き合って活動していく必要がある		
インタビュー	患者に対して看護師の役割拡大の必要性を見える化し伝えていくことが重要である		
インタビュー	APNの制度化に向けては、消費者の教育が重要である		
インタビュー	APNとは何かを現場で広める活動が必要である		
インタビュー	臨床現場でAPNについて得られる情報は、看護協会ニュース等に限られる		
インタビュー	看護協会ニュースで特定行為研修やNPに関連する情報を得ても流れていってしまうため、何とか盛り上げていけるような取り組みが必要である		
インタビュー	意識の高い看護師がいても情報を共有する余裕がないため、APNを広めていくための対応策を考えていく必要がある		
インタビュー	APNの患者や政策への影響を評価しないと社会から必要性が認められない		
自由記述	APNは国民のニーズに対応するものであることを広報する		
自由記述	制度の認知		
自由記述	高度看護実践を社会に向けて発信し、日本の医療制度の中にAPNを位置付ける		
自由記述	高度実践看護師の看護活動を社会に発信する		
インタビュー	現状では、NP教育課程修了生であっても保助看法以上のことができるわけではない	APNが実践する上での法的整備	○
インタビュー	看護師をよりよく活用するためには、権限を与えることが必要		
インタビュー	JANPUで教材リソースを持てばCNSの質を確保できると思う		○
インタビュー	CNSの分野を再編し、能力開発に焦点化して2年間の教育をおこなう		
インタビュー	大学院の2年間で専門分野の即戦力となるCNSを目指すことは難しいため、大学院ではCNSとしての能力についてのじっくり育てる必要がある	APN教育の質の確保	
インタビュー	CNSの大学院教育では、各専門領域の様々な視点を活かして、能力開発に焦点化した教育をおこなう		
インタビュー	小規模施設ではCNSの活用が難しいので管理者に上げているのでキャリアモデルが必要	APNコンピテンシーとキャリアモデルの提示	○
インタビュー	医師から指示されたら実施するようなPA的な働きのNPが多い		○
インタビュー	APNという制度自体が分かりづらいため、整理ができるとよい		
インタビュー	NPを教育するのは医師でなくてはいけないと考える医師もいる		
インタビュー	外科医は、存続が危ぶまれるなかで助手としてNPを導入したいと考えている		
インタビュー	NPや診療看護師の名称は当事者が理解していない部分もあるかもしれない		
インタビュー	NPの役割を説明するためには名称を定義することが重要である		
インタビュー	大学教員によるAPNの役割理解が不足しているのではないか		
インタビュー	38の特定行為が全てできる人がNPであるとこだわっている人もいる		
インタビュー	手術室の外で患者を管理をするNPが必要だと考える外科医もいる		
インタビュー	専門看護師の役割とは何か、当事者も確固たる答えを持たぬまま悩んでいる		
インタビュー	医師の多忙さを手助けしてくれるPA的なNPのほうがよいと考える医師もいる		
インタビュー	NPにPA的な実践を望まず、看護師としての側面で見られると評価する医師もおり、医師のなかでも意見が異なる	APNの役割理解	
インタビュー	修士以上の教育レベルを日本のAPNとして育成することにコンセンサスが得られてない		○
インタビュー	看護師のヒエラルキー構造を作ってAPNを制度化することに疑念を抱く大学教員の意見もある	APNの育成に向けた土台づくり	

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

インタビュー	4年制大学を卒業した一般の看護師の質を改善させるための方策が必要である		
インタビュー	看護師の立場を向上させないと、APNが社会的に必要なだと思われ、発展することは難しい		
インタビュー	看護師としての意見をもとに、医師と対等に話せる看護師が増えるとよい		
インタビュー	専門性の高い看護師の活動に関する研究から診療報酬算定につなげる	APNの活動を広げるための診療報酬獲得	○
インタビュー	よい実践をしていても診療報酬がつかないと活動が広がらない		
インタビュー	看護師として自律的に働いているNPが少なく、医師から指示されたら実施するようなPA的な働きのNPが多い		○
インタビュー	医師からは、NPの看護師としての能力が問われている		
インタビュー	意思決定の権限がないために能力を発揮する意義がないと考える看護師がいる	APNの看護師としての自律性向上	
インタビュー	NP課程の入学希望者は、医学部に入れずに看護師になり、看護師として自律できているかが疑わしいがひとが多い	APNの教育課程への入学者の基準の設定	○
インタビュー	認定看護師のように数が増えれば、APNの役割が周知されるようになる	APNの役割周知のための量的充実	○
インタビュー	専門看護師の専門科目に学会の力を借りられると、高度実践看護師のコースを持つ大学院が増え、結果的に専門看護師も増えると思う	APNの量的拡充のための看護系大学・学会間連携	○
インタビュー	教育課程を続けられない理由として入学者数の少なさがある。		
インタビュー	CNS課程は教員にも負担になっている		○
インタビュー	大学院でCNSコースを開設するには多大な労力を要する		
インタビュー	大学教員の負担が大きく教育課程を継続しない大学院がある		
インタビュー	専門看護師コースは実習もあるため、大学にとって過重な負担となっている	CNS課程の教員の負担	
インタビュー	大学院でのCNSの科目立ち上げが大変		
インタビュー	国外の高度実践看護師と日本のCNSやCNの給料が違う	海外と比較した日本の高度実践看護師の処遇	○
インタビュー	CNSの役割がNPに吸収されてしまった歴史があるため、CNSやNPだけ論じている場合ではないと思う		○
インタビュー	CNSやNPなどの名称にとってもこだわる人もいる		
インタビュー	制度化に向けては、NPやCNSのみではなく、APNというまとまりで議論すべき		
インタビュー	APNの制度化に向けて、CNSやNPだけでなく保健師や助産師も含め、大学院教育でのAPNというまとまりで検討されるべきである	大学院教育を受けたNPやCNSをAPNの括りで議論	
インタビュー	米国のように、APNの4職種が制度化に向けて独自に進むような間違いが日本でも繰り返されそうになっている		
インタビュー	APNのグランドデザインやAPNの発展に向けた内容は、CNS同士でも話し合っていかなければいけない	当事者たちがAPNの発展に向けた議論に参加	○
インタビュー	NPとCNSの履修単位数の違いをどう考えるのかわからない		○
インタビュー	APNの大学院の履修単位数が多すぎる	現在のAPN教育の履修単位数の多さ	
インタビュー	大学院の単位が多いので修士課程の2年間が大変になっている		
インタビュー	仕事を辞めて大学院でAPNを取っても実践を積んできた病院に戻れないと病院や本人にとっての損失になる		○
インタビュー	APNの実践環境を整える意味でも、APNの制度化は重要である		
インタビュー	高度実践看護の必要性を世の中に示して診療報酬が整わないと発展は難しい		
インタビュー	大学院で育成された看護師が診療報酬に結び付けて活躍できる場があるのか分からない		
インタビュー	CNSは大学院を修了して給料が高くなるので、必要性を認知されていないと活動の場がない		
インタビュー	CNSとして活動の場がない状況をみると他に大学院に行く人がいなくなる	高度実践看護師の活動環境の整備	
インタビュー	人材育成と活動の場はセットで整備していく		
インタビュー	学会がCNSとCNの活動をサポートできる領域とできない領域がある	専門性の高い看護師の活動を支援できる学会の存在	○

高度実践看護師（APN）制度推進のために解決すべき課題

インタビュー	大学と地域が連動して APN も一緒に育てていくことが大事だと思う	大学と地域が連動して APN を育成	○
インタビュー	専門看護師教育の大変さからコースを手放す大学が増え、専門看護師が増えないのではないかとジレンマを感じる	大学のみで APN 教育をおこなう負担	○
インタビュー	大学のみで専門看護師教育をするには限界がある		
インタビュー	慢性疾患看護専門看護師の教育では、教員の専門性で多数の慢性疾患を教えるには限界があると思う		
インタビュー	日本版 NP を検討することから検討が始まったのに、特定行為研修が着地点となっている	特定行為研修制度と APN 制度の関係	○
インタビュー	特定行為はスキルで、NP は役割であるため、同じ次元で議論しても仕方がない		
インタビュー	CNS が特定行為研修を受ける動きが少ないのは、特定行為研修の目的が医師不足解消や医師の負担軽減にあると理解しているためだと思う	特定行為研修受講への否定的な意見や風潮	○
インタビュー	特定行為の取得が看護としておかしいと言われる		
インタビュー	呼吸器管理や摂食嚥下では CNS が特定行為を取ったほうが良いと思うが、今までの日本の CNS の風潮から受け入れられない	領域による量的拡充のギャップ	○
インタビュー	CNS の数が増えている領域と増えていない領域がある		
インタビュー	小児看護における NP の実数が少なく、小児看護における APN は基本的に CNS である		
インタビュー	NP に関しては精神がかみにくいところもあって議論に出てこない		
インタビュー	小児看護における NP の実数が少ないため小児看護における APN は基本的に CNS である		